
仮面ライダーZEN

電人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーZEN

【Nコード】

N6616C

【作者名】

電人

【あらすじ】

正義への憧れを心の奥底に沈めてしまっていた青年が、ある事件をきっかけに再び正義へと目覚めます。

ブログ（前書き）

まだまだ初心者で駄文が目立ちますが温く見守ってやって下さいね

誹謗中傷は勘弁願います（^ ^;）。。

プロローグ

正義：良く分からなくなってしまった…。

分かってたはずだったのに心の奥に沈めてしまっていた…。

あいつに会おうまでは…

いつものように朝が訪れる、倦怠感が溢れる体を起こして大学に行く準備をする。

僕の名前は秋月 あきづき しゅう 晶 しゅう ごく普通の大学二回生だ。…一部を除いては。

僕の父は警視庁で警部として働いていた。
僕にとって父は正義の象徴でもあり、ある意味絶対的な存在だった。

だがある猟奇事件の捜査に乗り出した後、亡き者となって僕の元に戻って来た。

『正義は必ず勝つんだぞ。』父の口癖だった。そんな父を影から支えてた母も今となっては何かが抜け落ちたように毎日を送っている。

父が死んでもう半年になる、僕は変に大人ぶって母を懸命に宥めていたのを覚えている。

それまで僕は父と同じく警部を目指していた。そんな僕を母は必死で止めた。

『父さんの後を追うのはやめて！』

父に先立たれた母はそれ以来少しヒステリックになってしまい、僕に事あるごとにそう言うようになった。

僕はと言うと母に言われなくても警部になりたいという夢をほとんど失っていた。

僕にとっての正義の象徴が無くなった今、一体何を信じればいいのか、事件に関与しなければ父は無くなりはしなかったのか、そんな事を考え過ぎて僕はかなり憔悴してしまっていた。

『兄さん。もう朝ご飯の支度が出来てるから母さんが早く降りて来いってさ。』

僕の部屋を勢いよく開けて弟の結輝ゆづりが言った。

結輝は高校一年生で僕と違ってこの状況にめげる事なくとても明朗な雰囲気を漂わせてる奴だ。僕達を心配させまいと明るく振る舞ってるんだろうけど、その心遣いが逆に痛々しく感じる時がある。

『分かった。すぐ行くよ。』

僕は着替えを済ませ、もうだいぶ慣れてきてしまった一人欠けたテーブルで朝食をとった。

母は父の死んだ事件の報道以来ニュースの類いを見なくなった。僕と結輝もそんな母を気遣ってか朝はテレビを付けなくなった。

静かな朝食を終えて、いつものように玄関を出ようとすると母が『行つてらっしゃい。気をつけて帰って来てね。』といったものように送り出した。

『行つてきます。』

僕は愛車であるZZR400に跨り大学に向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6616c/>

仮面ライダーZEN

2010年10月10日22時13分発行